

賛美の聖書的方法

歴代誌第二 5:11~14



5:11 祭司たちが聖所から出て来たとき、——列席したすべての祭司が各組の務めの順序にかかわらず身を聖別した。

5:12 また、歌うたいであるレビ人全員も、すなわち、アサフもヘマンもエドトンも彼らの子らも彼らの兄弟たちも、白亜麻布を身にまとい、シンバル、十弦の琴および立琴を手にして、祭壇の東側に立ち、百二十人の祭司たちも彼らとともにいて、ラッパを吹き鳴らしていた。——

5:13 ラッパを吹き鳴らす者、歌うたいたちが、まるでひとりでもあるかのように一致して歌声を響かせ、主を賛美し、ほめたたえた。そして、ラッパとシンバルとさまざまな楽器をかなでて声をあげ、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」と主に向かって賛美した。そのとき、その宮、すなわち主の宮は雲で満ちた。

5:14 祭司たちは、その雲にさえぎられ、そこに立って仕えることができなかった。主の栄光が神の宮に満ちたからである。

賛美は主の命令

賛美は、してもしなくてもよいものではなく、聖書に明記されているように、しなければならない命令である。

喜び歌え。……喜び叫べ。……ほめ歌を歌え。タンバリンを打ち鳴らせ。六弦の琴に合わせて、良い音の立琴をかき鳴らせ。…それは、イスラエルのためのおきて、ヤコブの神の定めである。(詩:81:1~4)

主に向かって、心から歌い、また賛美なさい(エペソ5:19)

賛美は心から始める

「神に受け入れられる賛美とは、どのような賛美か」「神を賛美するための聖書的な方法は何か」これらの質問に答えようとするなら、前回にも指摘したように、賛美する者の資格が何であるかを心に留めなければならない。神は、賛美の方法よりも賛美する人に関心を持っておられる。

きよく、二心のない心という、賛美に不可欠な心を持たないで、ただ方法に基づいて賛美しても、儀式や単なる形だけのものに終わってしまう。

神はダビデの心に 目をとめられた

「わたしはエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心になった者で、わたしのところを余すところなく実行する。」

(使徒13:22)



喜びの歌はキリスト教会の ユニークなしるし

キリスト教以外の他のどの宗教が、喜びにあふれて、罪が赦されたこと、死の恐怖から解放されたこと、生ける神との日ごとの交わり、正義の究極的な勝利を歌うであろうか。





ダビデの指示

ダビデは彼が任命した音楽家たちに具体的な指示を与えている。その指示は、時を経て変わることはない。今日の教会にとっても、それらを知り、従うことは、とても重要である。4つの指示あげてみる。

- ①熟練した技能 ②喜びの歌
- ③一致した賛美 ④昼夜の賛美

①熟練した技能

神はヘマンに息子十四人と、娘三人を与えられた。これらはみな、その父の指揮下にあつて、シンバル、十弦の琴、立琴を手に、主の宮で歌を歌って、王の指揮の下に神の宮の奉仕に当たる者たちである。アサフ、エドトン、ヘマン、彼らおよび主にささげる歌の訓練を受けた彼らの同族——**彼らはみな達人であった。**——の人数は二百八十八人であった。 (1 歴代25:5~7)

しばしば私たちは、熟練された技能の欠けを弁解しますが、ダビデは音楽家にも他の働き手にも、熟練された技能を要求しました。

②喜びの歌

ダビデはレビ人のつかきたちに、彼らの同族の者たちを十弦の琴、立琴、シンバルなどの楽器を使う歌うたいとして立て、喜びの声をあげて歌わせるよう命じた。

(1 歴代15:16)

③一致した賛美

2 歴代5:13 ラッパを吹き鳴らす者、歌うたいたちが、まるでひとりででもあるかのように一致して歌声を響かせ、主を賛美し、ほめたたえた。そして、ラッパとシンバルとさまざまな楽器をかなでて声をあげ、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」と主に向かって賛美した。そのとき、その宮、すなわち主の宮は雲で満ちた。

5:14 祭司たちは、その雲にさえぎられ、そこに立って仕えることができなかった。主の栄光が神の宮に満ちたからである。

神に仕える音楽家たちは、心と声をひとつにして奉仕するように教えられていた。一致した奉仕の結果「**主の栄光が神の宮に満ちた**」。心を一つに賛美し主の栄光が日本の教会に満ちることを熱心に待ち望もう。

④昼夜の賛美

人々は歌うたいであつて、レビ人の一族のかしらであり、各部屋にいて、自由にされていた。昼となく夜となく彼らはその仕事に携わったからである。 (1 歴代9:33)

賛美することによりあまり気乗りのしない人にとっては、このことが奇妙に思えるかもしれない。しかし神殿の歌うたいたちは、主に向かって絶え間なく歌い続けた。



賛美の表現方法

- ①大声で叫ぶ……イザヤ12:6、詩篇66:1
- ②喜びをもって賛美する……イザヤ12:6、詩篇95:1-2
- ③手をたたく……詩篇47:1
- ④手を上げる……詩篇63:4、134:2、141:2
- ⑤種々の楽器を使う……詩篇98:5-6、150:3~5
- ⑥踊る……詩篇30:11、149:3、150:4
- ⑦頭をたれ、ひざまずく……詩篇95:6



結論

息のあるものはみな、主をほめたたえよ。
ハレルヤ (詩篇150:6)